

## 1. 機材繰りの一例

- ・沖縄ー青島ー成田 沖縄からは沖縄貨物ハブのネットワークを活かし、日本およびアジアから組み立て工場の比較的多い、青島へ輸送される貨物を取り込む。  
一方、青島発は電子製品の完成品など、日本や欧米マーケット向けの出荷が多い為、沖縄を経由せず、成田に輸送し、成田からのネットワークに接続する。
- ・沖縄-シンガポール-成田 上記同様、シンガポールへは、沖縄を経由し、様々な出発地からの貨物を輸送する一方、シンガポール発については、消費マーケットである日本や欧米への輸送を取り込む。

このような機材繰りを行うことにより、沖縄貨物ハブに1路線開設すれば、様々な輸送可能区間が増え、今回の新規開設により、2014年5月時点では、現時点よりも20区間の拡大となる。

## 2. 沖縄貨物ハブ新規路線の一例(リードタイム短縮例)

### ■(これまで)現在の上海-シンガポールの輸送例・リードタイム

DAY-1	上海ー那覇(00:35 – 3:40)
DAY-2	那覇-成田 (6:20-8:40) 成田-シンガポール(17:20-23:50 )
DAY-3	配送



### ■(今後)沖縄-シンガポールの開設による輸送例・リードタイム

DAY-1	上海-那覇 ( 00:35 – 3:40)
DAY-2	那覇-シンガポール ( 5:10-9:20 )
	配送

那覇-シンガポール線を開設することにより、例えば上海(浦東)-シンガポールのリードタイムが、約14時間(ほぼ1日)短縮可能となり、夕方に上海(浦東)空港に搬入された貨物は、沖縄貨物ハブネットワークを経由することで、翌朝の9:20にはシンガポール空港に到着することができる。